

## 「がんばるの公式」を信じて

新茶の候、皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

今年もゴールデン・ウィーク明けに、4年生が中学校で8年生と一緒に茶摘み体験をさせていただきます。茶葉を焙じたときの香りは、何とも心が落ち着きます。ほっとします。

子どもたちは、入学・進級して1か月ほどが経ち、新しい環境に早く慣れようと張り切っていた疲れが出てくるころです。教員もまた同様です。この連休を利用し、リフレッシュできればいいなと思っています。

さて先日、ソフトボールを通じての教え子に会いました。その子は、かつて私がよく話していた『がんばるの公式』を今でも覚えていて、励みにしているとのことでした。懐かしくもあり、とてもうれしかったです。

がんばるの公式 『<sup>がんば</sup>願生る → <sup>がんば</sup>頑張る → <sup>がんば</sup>顔晴る』

こうしたい・こうなりたいという自らの願いに生きる（願生る）ことを、一心に努力する（頑張る）ことによって、あなたのその瞳がきらめく（顔晴る）ことができるのです。

その当時、クラスや部活動などで、この公式を用いて「願生って、頑張ったら、顔晴れるんや！」と、激励していました。その教え子は、もう立派に社会で活躍しているのですが、願いに生きる「願生る」のフレーズをとくに覚えていたようでした。

私たちはよく「夢をもて」とか「目標をたてよ」などと話します。吉田松陰先生が残された言葉にも「夢なき者に成功なし」という言葉があったりします。自らが、こうしたい・こうなりたいと思い、願うことはとても重要なことです。そして、その思い・願いに「こだわり」をもって「いま、力いっぱい」に生きること。そんな毎日の繰り返しによって、人は成長していくのだと思います。

時に、夢をもてていない自分を卑下し、悩む子どもたちがいます。私は、「今はまだ、夢をもてていなくてもいい。健気に『いま、力いっぱい』に生きていれば、やがて『こうしたい、こうなりたい』と思えるようになる」と信じています。焦らず、諦めず、ゆっくりと丁寧に生きていけばそれで良いと思います。

子どもたちのキラキラした瞳は、実に美しいです。「がんばるの公式」を信じて、「顔晴る」毎日を送って欲しいと心から願っています。

令和7年5月1日

千種学園

宍粟市立千種小学校長 上山 昌秀

※ 以下に、本年度もPTA総会で紹介した「アメリカインディアンの教え」を掲載します。

子どもたちは、こうして生き方を学びます。

批判ばかり受けて育った子は、

人をけなすようになります。

いがみあう家庭で育った子は、

人と争うようになります。

恐れのある家庭で育った子は、

びくびくするようになります。

かわいそうだと哀れんで育てられた子は、

自分が哀れな人間だと思ようになります。

ひやかしを受けて育った子は、

はにかみ屋になります。

親が他人に対して嫉妬ばかりしていると、

子どもも人を羨むようになります。

侮辱したりけなしたりされて育った子は、

自分に自信をもてなくなります。

励まされて育った子は、

自信をもつようになります。

寛大な家庭で育った子は、

我慢することを学びます。

ほめられて育った子は、

感謝することを学びます。

心から受け入れられて育った子は、

愛することを学びます。

認められて育った子は、

自分が好きになります。

子どものなしとげたことを認めてあげれば、

目的をもつことの素晴らしさを学びます。

分かち合う家庭で育った子は、

思いやりを学びます。

正直な家庭で育った子は、

誠実であることの大切さを学びます。

公明正大な家庭で育った子は、

正義を学びます。

やさしさと、思いやりのある家庭で育った子は、

他人を尊敬することを学びます。

安心できる家庭で育った子は、

自らを信じ、人をも信じられるようになります。

和気あいあいとした家庭で育った子は、

この世の中はいいところだと思えるようになります。